

# ガザに希望を

アハメド・スーラーニ ( PARC パレスチナ農業開発協会・ガザ )

ガザから 2011年 1月に来日したアハメド・スーラーニさんの報告の一部分をご紹介します。



「政治勢力間の民族的な合意形成が、現在パレスチナ人の最も緊要で大きな願いです。」

イスラエルによる封鎖に反対する国際的なキャンペーンが重要であることはいうまでもありませんが、それに加えて開発事業の必要性、パレスチナの政治勢力間の和解、草の根レベルでの市民社会の強化が重要です。

2008年暮れのイスラエル軍による攻撃の以前からガザは厳しい状況にありました。第 2次インティファ

ダ (2000年) に始まり、それ以降どんどん悪化してきたのです。2007年から強化された封鎖は、とりわけ農地と資源を荒廃させ、悲惨な状態を招いていますが、こうしたこともパレスチナの二大政治勢力である「ファタハ」と「ハマス」の対立を悪化させる原因となっています。

パレスチナ人は、ファタハとハマ

スの間で進んでいる話し合いに大きな期待をかけ、和解が一日も速く進むことを願っています。生活が良くなること、社会経済的に状況が改善されることを願っているのです。というのも私たちは内部対立によって大きな損失を蒙っているからです。民族的な統一がないために、イスラエルによる封鎖をやめさせる交渉を持つ機会を得ることは出来ません。その結果、3年以上に及ぶ封鎖によって、国境と検問を通過することも出来ない状態です。ガザとヨルダン川西岸の間、またガザと外側の世界の間での輸出入が阻まれ、移動の自由が許されないのです。社会経済的な状況は、日々の生活を困難にし、心理状況は特に悪化しています。

そうした中で、市民社会団体は非常に重要な役割を果たしています。ガザでは食料や農業のための資機材が不足しています。4年前、農業開発協会は「貧しい農民から貧しい家族へ」というプログラムを開始しました。これはガザ南部の農民たちのリクエストで開始されたものでした。農民や女性組合の生産物をフェアな価格で買い取って、貧しく支援を必要としている家族に配ったらどうか。私たちはこの考えを発展させることになりました。地域の自立と人道支援を同時に進めることが出来るようになったのです。この前の戦争のときには大変に有効でした。

私たちは長年、人権面でのアドボカシー活動も続けています。たとえば、2003年にイスラエルはガザの境界沿いに「バファーゾーン」という長い無人地帯を設定しました。ガザの北西部から南部まで、幅が600メートル、長さが55キロに及ぶ帯が作られ、それによってガザの最も肥沃な土地の25%が接収されてしまいました。そのために農民の16%が自分の土地

にアクセスできなくなり、食糧支援に頼らざるを得なくなっています。

PARCはこうした農民たちへの支援を、地元レベルでも国際的にも続けています。彼らとその農地に戻ることはもちろん、農地を復興することにも力を入れているのです。境界のフェンスそばの土地ではなく、境界から最も遠くてより安全な最初の200メートルまでの土地に戻ることを奨励しています。これらの地域は夜間は大変に危険でも、昼間の作業は許可されているからです。

昨年、PARCは女性と農民が自分でコミュニティ開発事業を作る手伝いをしました。これは「ライフコミットメント」という名前によれば、農民の組合、農村の女性団体、貯蓄や貸付の団体、農村の青年団体が存在しています。地元のボランティアのグループが、ガザのいたるところに存在し、地域のネットワークも出来ています。こうしたネットワークを通して、ガザの数千人の農家と関係が出来ているのです。「ライフコミットメント」のプログラムでは他の就労も進めていますが、農民、農村女性や青年にとって最も重要な安定した仕事は農業に従事することなのです。

恐怖とストレスは私たちの心理の一部になっています。私たちはすべての方向から圧力を加えられたゴムホースのような状態です。限られた土地に150万人の人口。8つの難民キャンプ。1平方キロあたりの人口は10万人になります。人口増加率は4%に近く、世界でも最高です。日に夜に聞こえるヘリコプターの音に子どもたちは怯えています。人々はこれからも軍事侵攻が続くことを心配しているのです。

こうした中でなんとか生きていかなければならない私たちにとって、子どものための緑地、家庭菜園やウサギや鶏を飼うことの出来る空間などがあることが、どれだけ心理的な救いになるでしょう。難民キャンプでは屋根の上の菜園作りを紹介しています。

現在の状況で最も大切なことは、内部的な平和作りだと思います。パレスチナ内部のさまざまな政治勢力の間での民族的な一致。これがいまパレスチナ人の望んでいる一番大事なことです。これなしにはどんな変化をもたらすことも出来ないのです。これはまた、すべての人、個人、市民社会団体、政党の責任です。もちろん中東地域と国際社会のレベルでは、関係するさまざまな関係者に圧力をかける必要もあります。

封鎖が続く限り、暴力と怒り、不満が増大し、人々の希望はそがれていきます。パレスチナ内部の統一がない限り、イスラエルとの交渉も進みません。ガザとヨルダン川西岸とのつながりを再確立することも必要です。各地の村や町、人々の間の自由なコミュニケーションも重要です。そうでないと政党間の離間がすすみ、パレスチナ独立国家の成立は不可能になっていきます。またパレスチナの資源を有効活用、輸出入の促進、自由な移動は、平和の構築と開発に不可欠です。（2011年1月、東京）

